

3. 舟尾マンボ

(舟尾町)



天保から弘化年間にかけて七尾西湾に新田を開発した水利のため、当時の肝いりだった左近四郎という人を中心に通称タカノヤマを貫通させ、垣吉から流れる二ノ宮川の水をひくという大計画によって完工されたものといわれています。

現在、大小二本が貫通して垣吉側の取入口は二本が一部繋がっています。この大事業により舟尾の海岸一帯に広がる44ha(約40町歩)あまりの水田をうるおしています。